

広報

おひめ

NO.457

平成8年9月10日



夜目にもくっきり白ギツネ

さかずき

盃 交わしてコンと鳴く



〒948-01 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 TEL0257-68-3111 FAX0257-68-3828
発行 町長 南雲春雄 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社 (毎月10日発行)

人口の動き

—9月1日現在—

男	4,266 (−2)
女	4,341 (+2)
計	8,607 (±0)
世帯数	2,262 (+1)
() は前月比較	

わが郷土 愛し育てて40年
かわに今は今 新世紀へ

40

川西町誕生40周年 記念式典を挙



式辞を述べる南雲町長



町民憲章の朗読



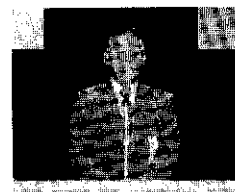
特別功労者等を表彰



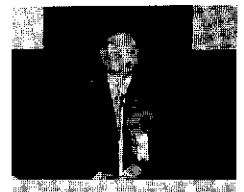
タイムカプセルの開封と新たな収納



「町の将来」優秀作文の発表



本田十日町市長



小川県副知事

ご来賓から祝辞をいただく



高津富士男(寺ヶ崎・48歳)

昭和五十年から五十二年間、町教育委員として教育振興に尽力されました。



昭和五十八年から三十二年間、町助役として町政発展に尽力されました。

◎特別功労者表彰

南雲 守(中仙田・65歳)

式典に際し、次の皆さんを表彰いたしました。(順不同、敬称略)

◎「町の将来」優秀作文表彰

優秀作文表彰

○小学四年生の部

星名 千夏(千手小学校)

○小学五年生の部

小柳可菜子(上野小学校)

○小学六年生の部

関口明日香(千手小学校)

○中学生の部

高橋千代恵(三年生)



前列左から、星名千夏、小柳可菜子。後列左から、関口明日香、高橋千代恵の皆さん



を展開しています。

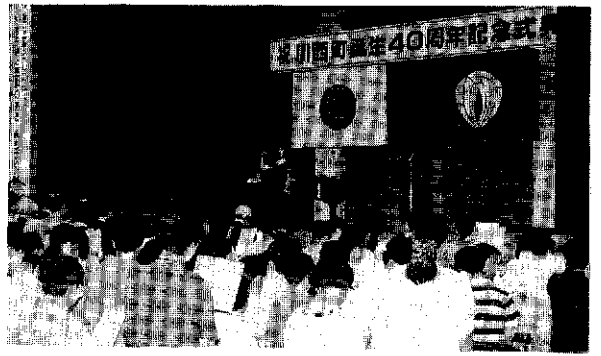
◎善行表彰

新潟県立川西高等学校

ボランティア部

(部長 川崎里奈・部員25人)

昭和五十四年にボランティアサークルとして誕生。平成三年に部として発足。地域の福祉施設、保育園、公民館事業に積極的なボランティア活動



当重さんに合わせ全員で「ふるさと」を歌う

当日発表された優秀作文のうち、中学三年生の高橋千代恵さんの作文を紹介します。

なお、残り三点については本紙十月号で紹介いたします。

「川西町」

高橋 千代恵

私は、自分の家から、川西中学校までの通学路がとても好きだ。

特に「秋の帰り道」。強い風が吹くと、あたり一面に広がる田んぼの見事な金色の稲が波のように揺れる。前に広がる山は、きれいな赤や黄色だ。その山に真っ赤な夕

日が沈んでゆく。この、帰り道で見ることでできる「秋」を、私はとても気に入っている。

そして、風が運んでくる稲の香ばしいにおい。私はこのにおいがすると、（もう秋か）と、思うようになる。

こんなふうに、川西町の当たり前の風景を好きな人は、私だけじゃないと思う。

川西町は、とても自然の多い町だ。これは他の町にも自慢できることだと思う。それにとってものかで、町に住んでいる人も優しく親切だ。

みることができました。

昭和三十一年九月一日に一町三村の新設合併により、川西町が誕生してから、はや四十年の歳月が流れました。ここに四十周年をお祝いできますことを心からお喜び申し上げます。

振り返りますと、誕生当初の十年は真剣に新しい町づくりの議論が交わされ、旧町村意識から脱却し全町一体化の基礎が確立された期間でありました。その後、町総合開発計画のもとで諸事業を進め、川西方式ともいえる生産性の高い米づくり体制の確立、保健医療福祉施設の集中整備、教育文化施設や観光施設の整備、克雪対策、下水道整備等各方面に大きな躍進を

た今日、過疎化に加え高齢化、国際化、情報化への対応、地方分権など課題が山積しています。

川西町は昨年、今年から向こう十年間のまちづくり計画である第五次川西町総合開発計画を策定し

暮らした。その基本方向を「快適なまちづくり」と定めています。それは、多様な経済・文化活動が活発に展開され、町民一人ひとりが快適に安心して生活でき、町で暮らす楽しさや喜び、感動が体感できるまちづくりです。言い替えれば、町民一人ひとりがこの町で輝いて生きるまちづくりであります。

四十周年のメインテーマを「わが郷土愛し育てて四十年、かわに

は今新世紀へ」としてあります。この意を体し、二十一世紀の希望に満ちたまちづくりに全力で取り組んでいく所存でございます。今後とも皆様方の一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。

川西町長 南雲 春雄

川西町長 南雲 春雄

そんな川西町も、今年で四十年目だという。川西町になる前はどんな風だったんだろう、と思って祖母に聞いてみた。そうすると、祖母は、昔は千手・上野・橋・仙田・白倉それから中野という地域が別々にあったことを教えてくれた。それから、「千手町」ができた年は、今の天皇陛下が生まれた年で、町になったし天皇陛下も生まれたし、という事で、提灯行列を町の人々がやったということも教えてもらった。話を聞いて、私の知らないことがたくさんあってびっくりした。

私が、「今と昔で変わったことは？」と聞くと、「やっぱり人口かな。昔の方がたくさん人がいた。」と言った。

川西町は「自然が多い」という長所もある反面、過疎化が進んでいるという問題点もあるんだなあ、と思った。やっぱり町はにぎやかで楽しい方がいい。じゃあ、そのためにはどうすればいいか。私は、川西町の自然を生かした町おこしをすればいいと思う。川西町の自然といたったら、まず米が思い浮かぶ。私はご飯が大好きで、このとてもおいしい川西町に生まれてよかったと思うことがある。

そのお米を使うのだ。例えば、この川西町がある中魚沼郡は、お米のおいしい所でけっこう有名だと思

う。それを他の地域の人に派手に宣伝する。そして「日本一おいしいお米の店」とかをつくれれば、人もたくさん集まると思う。この川西町の小嶋屋さんだって、とても有名で県外からもお客さんがおそばを食べに来るそう。そんなふうになれば、川西町ももっとにぎやかになるだろう。

そしてなによりも大切なのは、将来の川西町をつくっていく私たちが、川西町について色々と考えたり、話し合ったりすることだと思

議会報告

八月二十日から第五回川西町議会定例会が始まっています。会期は、九月十八日までの予定です。

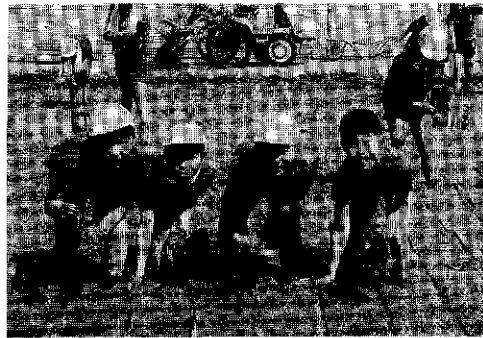
初日の二十日は、平成七年度川西町一般会計は六つの特別会計と一つの事業会計の歳入歳出決算を認定。続いて、新設条例となる川西町上野集会所設置及び管理に関する条例を建設住民常任委員会に付託し、平成八年度川西町一般会計補正予算（第一号）を可決しました。

「川西町農業」

は、今……。

◆川西町農業の現状

川西町における稲作農業は、昭和四十七年度からの第二次農業構造改善事業により設立された「集落を単位としたぐるみ型の生産組織」によって担われており、県営ほ場整備事業及び県営かんがい排水事業の実施、高性能の田植機、コンバイン等の導入による機械化の推進などにより効率的な生産が行われ、高品質米が生産されています。例えば、平成七年産の一等米比率が九四・五パーセントと中魚沼郡ではトップであるとともに、田植機、コンバイン等の機械一台当たりの稼働（作業）面積及び生産額が、魚沼地域の中で最も大きくなっています。



◆生産組織の現状と課題

しかしながら、一見、好ましい生産形態と考えられている生産組織の現状は、第二種兼業農家の増大、農作業従事者の高齢化等により、担い手が減少するなど、その基盤は不安定なものとなっており、この状態が継続されれば、町農業の衰退が現実のものになると考えられます。

実際、農業就業人口のうち六〇

歳以上の者が七三パーセント（平成七年）を占める一方、新規就農者、青年農業者というべき二〇〜四〇歳の割合は、魚沼地域の中で最も小さい数値（三・三パーセント）となっています。

農林課では、川西町農業農村活性化長期構想等に表示された目標の具体化に向け、町農業の担い手である農業生産組織の現状を調査したところである。今回、この調査結果をお知らせするとともに、川西町農業の現状と将来展望について検討いたします。

農家に広く還元され、オペレーター等には作業労賃等としてしか還元されていないこと。

③ 兼業化・高齢化の進展により、組織の中心的担い手はもとより補助労働力などの人手確保が困難であること。

④ 農作業受託が主流となっているため、農地の流動化が進まず、また、これに伴い、認定農業者等の町農業の担い手が確保されていないこと。

⑤ 機械・施設が経営規模に比べて過剰投資となっており（特に経営規模が小さい生産組合、このことが生産組合の経営（収益）に大きな影響を与えていること。等から生産組織、さらには町農業の継続が危ぶまれる状況になっています。

このことから、町としては、平成六年三月に「川西町農業農村活性化長期構想」、七年一月に農業経営基盤強化促進法に基づく「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」を策定し、町農業の維持発展のための対策を實行しようとしています。

を進めるとともに、現在の機械施設利用組合の地区を単位とした四組織に統合し、最終的には全町を網羅した一つの組織体（仮称・川西町農業生産センター）に統合することとしています。

しかしながら、

① 利用料額と小作料額の違いにより、農地の集積が進まないこと。

② 生産組織が集落という地縁的なまとまりで運営されており、また、各集落ごとに農地等に生産性の違いがあること。

③ 法人化へのメリットが明確化されていないことから、生産組織内での法人化の気運が高まらないこと。

④ 法人化した場合においても、通年雇用の確保等のため、経営者の経営努力が必要となること。

⑤ 法人化に伴う経理等の事務作業に精通している者の育成・確保が難しいこと。

⑥ 生産組織の合併に当たり、財産の処分方法が問題となること。

⑦ 独自の販売ルート、ブランド等を持つことには、困難が伴うこと。

等の理由から、生産組織の再編・統合、法人化が進まない状況にあります。

ポイントとしては、
① 生産組織リーダの高齢化と後継者難に対応するため、組織の再編・統合と法人化を図り、多角経営の実践、基幹従事者の雇用安定、農用地の利用権設定を促進し、組織経営体としての基盤の確立を推進すること。
② 認定農業者制度及び農用地流動化制度並びに低利融資制度等を活用した規模拡大や、複合経営の取組による経営改善を促進し、個別経営体としての基盤の確立を支援すること。
③ 新食糧法の施行に対応した米の有利販売及び特産品の販路拡大を図るため、宣伝・販売体制を充実させるとともに、地域ブランドの確立と販路の安定確保を推進すること。
等であります。

生産組織の再編・統合、法人化については、平成八年三月に南部生産組合が農事組合法人南部に組織変更したところであり、法人化について他の生産組合も検討を進めている状況にあります。計画としては、個々の生産組合の法人化

◆国、県の農政展望

国の農政の展望方向としては、平成四年六月に策定された「新しい食料・農業・農村政策の方向」（通称「新政策」）に基づき、

① 個別経営体では一〇～二〇ヘクタール程度、組織経営体では一集落ないし数集落（主たる従事者が三名の場合、三五～五〇ヘクタール）に相当する程度の経営規模を持つ望ましい経営体の実現。

② 経営感覚に優れた効率的・安定的な経営体が生産の大宗を担う農業構造が、それぞれの地域の創意・工夫を生かして実現されるよう、育成すべき経営体に農地の利用集積が行えるような土地利用、農作業受委託等の仕組みを整備。

③ 生産組織などについては、経営の効率化、近代化を図り、熱度の高いものから法人化。

④ 意欲的な農業経営体の自主性を生かすとともに、生産者の顔も見える流通に対する要請の高まりにこたえるため、米流通について、産直ルートの拡充など販売方法を多様化。

等の施策を推進することとしており、平成五年には、認定農業者等に対する農用地の利用集積、これら農業者の農業経営基盤の強化を促進するための措置を講じた「農業経営基盤強化促進法」が、また、

平成六年には、米穀の生産者から消費者までの計画的な流通を確保するための措置、米穀の需給の均衡を図るための生産調整の円滑な推進等を講ずる「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」が公布されました。

県の農政の展開方向としても、国の農政の展開方向に基づき、平成五年に「新たな新潟県農林水産業振興基本構想」（平成八年改訂）を策定し、

① 経営体を中心とした力強い地域農業システムの確立。

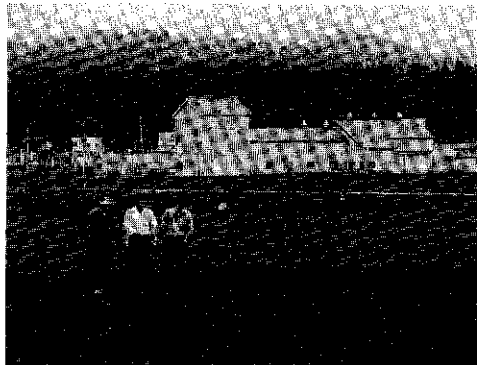
② 経営体への農地流動化、農作業受委託の推進。

③ 多様な消費者ニーズに対応した販売体制の整備。

等の施策を推進しています。

◆町農政の展望

生産組織の現状と課題において述べてある生産組織の問題点に對



処するため、短期的には

① 生産組織間における人及び機械等の移動の促進（当面の農作業従事者（出役者）不足に対応するため、集落間を越えて農作業に従事できる体制を整備）。

② 農作業受委託から利用権設定等への転換（農業経営体の育成・確保の支障となつていいる農作業受委託から利用権設定等への転換を促進）。

等を実施し、長期的には、

① 認定農業者の確保等町農業を担う農業経営体の育成（個別経営体と組織経営体を明確にし、これらの者に農地を集積するとともに、複合経営、経営管理等について普及啓発）。

② 生産組織の法人化・再編統合（生産から販売までの農業経営を行う農業法人を育成し、消費者ニーズに対応した品・質・量の生産が可能な経営基盤とするための再編・統合を推進）。

等を推進することとしています。具体的には、先程実施しました農業生産組織実態調査における各生産組合長からの意向調査により、以下の方向づけが可能であると考えられます。

★ 千手地区においては、経営規模七〇～一〇〇ヘクタール（オペレーター六人から一〇人）程度を持つ農業法人、生産組合に再編統合。また、必要に応じ、

一〇～二〇ヘクタール程度の経営規模を持つ認定農業者に農地を集積。

★ 上野地区においては、米の販売までを行う構想があれば、経営規模を拡大するとともに、法人化して農地を集積。

★ 橘地区においては、休眠生産組合を整理。当面、生産組合と個人農家の共存体制を維持。しかしながら、個人農家が高齢化していることから、農作業を委託することのできる組合組織または法人組織が必要。

★ 仙田地区においては、二つのライスセクターによる機械の共同利用を拡充していくとともに、多面的な農村基盤の整備を図っていくことが必要。

これらの施策の推進に当たっては、町及び関係行政機関の支援、調整により、生産組織の再編・統合、法人化が進まない理由として掲げた課題を一つ一つクリアしていくとともに、生産組合・集落においても、今後の生産組合のあり方、今後の集落における農業のあり方等について、生産組合員のみならず集落の農家を含め検討を重ねていく必要があると考えられます。

◆最後に

今、日本の農業は、大きな転換期、歴史的な変革期を迎えており、



これらに対応して足腰の強い農業経営を構築することが求められていいると考えられます。それは、

① 意欲ある経営者が、創意・工夫を生かした農業経営を法人形態で行うことができるようになる。

② 米の販売等の規制を緩和し、意欲ある経営者が、自ら流通ルートを確認し、有利販売を行うことができるようになる。

等のために法制度等を整備したからであります。このことにより、意欲のある農業経営体を持つ産地と従来の形態による農業を行う産地との格差が広がっていくものと考えられます。

また、整備された美田や築き上げた良質米産地としての名声を、しっかりと次代に引継ぐために、担い手の体制整備・農地の流動化等を一層促進していく必要があります。

「川西町農業」は、今、新たな時代に突入したことを、改めて皆様方からご認識いただくとともに、今後の農政の展開方向について、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

中学生の目にはどんなふうに映ったかな

職場体験

川西中学校（山崎嘉久校長）が夏休みを利用して実施している三年生の職場体験。三年目を迎えた今回は、生徒自身が体験希望の職場を選定し交渉を行ったとのことです。

体験先は町内にとどまらず十日町市にも及び、一〇人が各事業所で仕事に汗を流しました。体験談の中からごく一部を紹介します。（敬称略）

◆体験先 松乃井酒造場

汗びっしょりの姿に感動

大海 真彦

「おはようございます」

職場体験一日目のことだった。どうしていいかわからずに玄關でたたずんでいた僕達に、さわやかな声をかけて中に案内してくれました。

中に入るとまわりのものがどれだけでもめずらしい物ばかりに見えました。

風につてツンと鼻をつくお酒の臭い、そこで働く大勢の人、どれもが自分の想像とちがう新鮮なものでした。

初めての体験でとまどっている僕達に、とてもわかりやすく何回も説明しておしてくれました。



左から、高橋淳さん、西野健さん
大海真彦さん

職場の皆さんが汗をびっしょりかいていっしょうけんめいに仕事をしていました。その姿を見て自分もがんばろうという気になりました。

すべての仕事の中でも配達がとてもつらく、心に残りました。重いビールピンを二つも三つも平気な顔をして持つ職場の人の姿が、今でも頭の中に焼きついていきます。

三日間という言葉ではかるく、とても短い時間ですが、この三日間はとても長くじゅうじつした三日間でした。

最後に、松乃井の皆さん三日間本当にお世話になりました。仕事が終わらずに足を引っぱってしまいました。そんな僕達にやさしく仕事をおしえてくださってありがとうございました。心から感謝いたします。

◆体験先 小嶋屋総本店

見えない仕事

井上 冴子

小嶋屋に体験をしに行く前、洗い物などをするのかなあといいながら行ってみると、私にまわっていたのは工場での仕事でした。

工場での仕事など考えてもいなかった私にとって、見たことのない仕事に機械に、とっても新鮮な気持ちでやらせていただきました。

めいわくをかけたかもしれないけれど、その中で、三日間だけでも働けたことを家に帰ってつくづく良かったなあと思います。



井上冴子さん(右)、後方左から
田中邦宜さん、高橋隼道さん

で良かったと言っていました。その中には、働けることの大変さと楽しさを知ることができた事、だんだん慣れてきて、ちょっとむずかしいのに進めた事など、一日でわかった事もある。三日かけてやっとわかった事もあります。いざ考えてみると工場あつてのお店だし、職場にいる人あつてのお店だなあとも思いました。

そして、この体験で知った事をこれからの生活にいかしていきたいです。

一番心にのこっているのは、店長さんが最後にいつてくれた言葉です。それは、

「一生懸命に働くこと、そして山をこえていくこと、これは学校も職場でも同じなんですよね」というもの。それを聞いたとき、小嶋屋にして本当に良かったと思えました。そして同時に、私も将来、お互いに信頼のできる職場で働きたいなあと思いました。

◆体験先 上野保育園

子供たちは元気いっぱい

太田 記央

ぼくは上野保育園に行きました。保育園では本場にいろいろな体験をしました。ぼくは、赤ちゃんのオムツもかえたりしました。（生まれてはじめてです）また、小さい頃に帰って、一緒にカマキリをつかまえたり、外で遊んだりもしました。

子供たちは四つの組に分かれて



左から、丸山広哲さん、片桐武彦さん、
今井拓朗さん、太田記央さん

いて、ぼくは年長組の「ひまわり組」と未満児組の「もも組」をやらせてもらいました。もも組の子供たちは小さくて、見慣れない人の顔を見るとすぐに泣いてしまい、とても苦労しました。

また、ひまわり組の子供たちは元気いっぱい、すぐに慣れて一緒に遊びました。五・六歳の子供は少しもじつとしていないし、慣れれば慣れるほど体ごとぶつかってきます。時には足キック。ちょっと「ムカツ」ときたときもありましたが楽しかったです。

また、子供たちは、人なつこく、お昼寝のときなど、隣にやっつけて「ねようぜ」とかいわれて、けっこうお母さん気分にもなりました。

この三日間で、保母さんの仕事、すごく重労働だということを知りました。子供って本当に元気いっぱいでした。

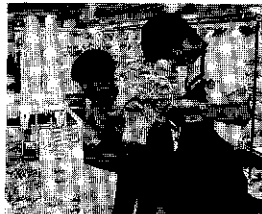
この貴重な体験をさせて下さった保育園のみなさんに心から感謝します。ありがとうございました。



▲8/2 木村鉄工所にて



▲8/2 マツモト書店にて



▲7/29 清水フードチェーン
だいも店



▲8/6 松葉荘にて

職場体験 フラッシュ



▲8/11
くりや商店にて



▲7/29 JA新潟川西給油所にて

▼8/13 あかね園にて



◆体験先 ナカグリーンパーク

暑い中での体験

高橋 秀規

七月十一日・十二日・十三日と、ナカグリーンパークに職場体験をやるために行きました。

一日目の仕事は、フロントや紙を切ったり、ゴミを拾う仕事でした。仕事の内容がよく分からなくて大変でした。フロントに立っていたときが一番きんちようしました。ゴミ拾いは、暑い時だったからとても大変でした。

二日目はずつと外の仕事で、水をまく仕事をやらしてもらいました。水をまくときに人にかけないようにしないといけないからたいへんでした。外はかなりあつく、とても大変な仕事だと思いました。

三日目も二日目と同じでした。三日目の方がなをやるか分かっていてのでかんだんでした。三日目は少しずつとよかったです。それと十時と三時の休けいもよかったです。それに、新しくオープンするゴルフ場を見せてもらったりもしました。

毎日がとても大変で、とくに外ではたらいっている男の人とくに



丸山英明さん(手前)と
高橋秀規さん(奥)

大変だと思いました。

僕も三日間を通して色々な仕事をやらしてもらってよかったです。そしていい勉強になったと思います。

◆体験先 あかね園

私にもできること

藤巻 徳美

夏休みが今年もやって来た。中学生としての夏休みは、これが最後となった。今年の夏休みも職場体験があり、私はあかね園に体験に行った。

最初行った時、どんなことをするのだろうかと思った。一日目、お年寄りと一緒にラジオ体操をやったりお話をしたりと、次から次へと仕事が終わってきた。何の話をしたらいいのかわからなかったけど、お年寄りの方から話しかけて下さったので少し安心した。

午後になると入浴で、私達のまかされた仕事は、つめ切りとお年寄りの誘導だった。不器用な私にとつてつめ切りは恐怖だった。そんな感じで緊張の一日目が終わり、次の日。二日目はシーツの取りかえなどがあり、だんだん仕事にもなれてきた。お年寄りは話をするのが好きで、会話ははずむようになった。長いようで短かった二日間が終わった。

この二日間を通して、私も将来こういう仕事につきたいということとを少し思った。そして、私の家にいる祖父や祖母が人の手を借り



藤巻徳美さん(左)と田中恵梨香さん(右)

◆体験先 役場税務課

貴重な体験の三日間

保坂 奈穂美

私は八月五日、六日、七日と川西町役場に職場体験に行ってきた。役場にはいろんな課があるのですが、私がお世話になったのは「税務課」というところです。税務課は字を見てのとおり、税に関する仕事です。税といっても細かくいうと仕事は二つで、町民税にかかわる仕事と、固定資産税にかかわる仕事がありました。

私は一日目から三日目の午前中まで同じ仕事をしていたのですが、その仕事の内容は、町内の田畑の面積や等級を写すというものでし

た。この仕事をしていると、土地に等級があったり、自分の家の田んぼがどのくらいの等級のところに含まれるのかわかったりして、なかなかおもしろかったです。

しかし、机にずっと座り、黙々と作業を続けるのは大変つらく、しかもほんの三日や四日では終わらない大作業（なせ川西町全部の田畑）なのです。やはり生活を支えるための仕事というのはすごく大変なんだと思いました。でも、そんな大変な事をやっているからこそ、人とのふれあいが大切なんだと思います。

役場には優しくてなごやかな人たちがたくさんいました。つらくても、つらいからこそ、そのつらさを楽しみにしてしまうくらいの心の強さが必要なんだと思いました。



斉木浩子さん(左)と保坂奈穂美さん(右)

地域の力に大いに感謝！

川西中学校長 山崎 嘉久



川西中学校 校では、二年前から地元の方の協力を得て「職場体験」を実施させていただいております。

現在、中学生を取り巻く社会は大きく変化しており、実にさまざまな問題を抱えております。また、汗して働くことの経験がほとんどない現在です。

こうした状況をふまえ、ぜひとも体験活動を行い、自分の将来を真剣に考える中学生を育てていきたいと考えて行つてまいりました。当然の事ながら、十五歳ですのでも「手助けになる」などの問題ではなく、「せいぜい足手まといにならないように」と願うばかりですが、趣旨をくみとっていただき、地域の方々から、温かく生徒の活動を支援していただきました。

また、本年度からは生徒一人ひとりの希望を生かし、「自分で決めた職場で体験を」と、交渉の段階から生徒自身で行いました。中には「電話で何を言っているのか分からない」とお叱りを受けたり、子供たちで判断できず「ちよっと待って下さい」の連絡とかなりご迷惑をかけながらの交渉でしたが、四十方所近くの事業所から、快く引き受けていただきました。「川西町の子供にかけられる思い」の大きさを感ずるにはいられませんでした。

おかげさまでもちまして、生徒は、普段学校の生活では経験できない、本当に貴重な体験をさせていただくことができました。体験を終了した生徒たちから、「立ちっぱなしの仕事があんなに辛いとは思わなかった」「楽しそうだなと思つて行つたのに、こんなに難儀だった」「表面的にはかいていなくて、あんなに見えない仕事があるとは思わなかった」など報告してくれました。この貴重な体験は、これからの学校生活や進路選択に生きていくものと確信しております。

また、これからも、地域のみならず、また、これからの「川西町の子供たちの健全育成」に努めてまいりたいと考えております。地元のご支援とご協力に心から感謝申し上げます。



町長室からこんにちは

千手観音の例祭から梅雨明けとなりました。そして、今年は冷夏？との予報に反して、暑い夏でした。

梅雨期の降雨量は二九三ミリ、過去十年間の平均降雨量は二九七ミリですから、かなり少ない数字です。

通常、春の代掻き水で、川西ダムの貯水は大量に放流されますが、梅雨末期には滴水になります。しかし、今年の同期は貯水率七一パーセントでしたから、梅雨期の雨の少なさを裏付けています。

川西東部地域の水田を潤す川西ダム、五升苗ダム、松葉沢ダム（現在坪山、長福寺両ダムは工事中）は、ダム用水の計画的な有効利用を図るため、中央管理所で遠隔操作し、一元化を進めています。しかし、各水系の流末まで、かんがい用水の公平な配分をするために、各水系ごとに管理者を定め、



総勢十三名の方々から水番としてご苦労願っています。

水稲栽培にあたり、イネの成長の各期に、どの程度の水が必要か、また、品種によつての差異はどうか等々、また、用水路の破損は無いか、降雨量や各ダムの貯水量を常時見くらべながら、臨機応変な用水利用を実施しなければなりません。それだけに、土地改良区の担当者や水番の方々の責任は重大です。干ばつ時の苦労は大変です。

今年もこうした皆様の頑張りのお蔭で、用水利用も順調に、希望に輝く稲刈期を迎えることができました。お骨折りご苦労様でした。ところで、今年八月の降雨量は晴天続きであった割に一八五ミリと、平年より五九ミリも上回りました。比較的まとまって降ったことが影響したようでした。

私どもの先輩の方々の英知と努力によつて築造された各ダムは、克雪利用など非かんがい期の有効利用を視野に入れながら、近代的な機能を備えた施設整備を進めています。末長く町民共有の貴重な財産として、利活用できますことを祈念しています。

（注）降雨量は、すべて川西ダムの観測数値です。

和久井工さん

県の監査委員功労者表彰を受賞

和久井工さん（木落）は、昭和六十三年から町の監査委員として、町財政の適正支出にご指導をいただいております。

この度、七月十八日に行われた新潟県町村監査委員会定期総会の席上、「町村監査委員として七年以上在職し、その功績が顕著な者」との県の表彰規程により、賞を贈られたものです。

現在、郡監査委員長、県監査委員会副会長の職も務めておられます。



児玉達雄さん

県人権擁護委員会連合会長表彰を受賞

児玉達雄さん（学校町）は、平成二年十一月から現在までの五年十カ月の間、人権擁護委員として、基本的人権の侵犯に対する監視や救済、人権思想の普及などの人権擁護活動に努めておられます。この間の取り組みに対し、賞が贈られたものです。

現在、同職のほか、町教育委員、町民生委員推薦会委員も務めていただいています。



生涯学習、それは人生の友

八月二十五日、総合センターで第六回川西町生涯学習推進大会が開かれ、約一二〇人が参加しました。

大会では三人の方から体験発表があり、最初に、柔道スポーツ少年団に参加している金井洋介くん（千手小五年生）から「練習や試合、団の行事もようと友達や先輩がいっぱいできた」ことが、橘小のPTA活動として家庭教育講座開講に携わった浦井久美子さん（仁田）からは「講座は、承り型より参加してよかった、明日から実践しようという気持ちになるよ

うなものにしなければ。また、乳幼児期からの家庭教育講座の必要性を感じた」ことが、フルート教室に参加している数藤清治さん（沖立）からは「六十年このかた一度も手にしたことのない楽器から音がでるか不安であったが、勇気を持って、ゆとりある気持ちで、ユーモアを忘れなければ取り組める」の発表とともに、《いつでも夢を》の演奏が披露されました。

続いて、太極拳教室の皆さんによる実演発表があり、最後に県社会教育協会副会長の桑原昭三さんの「くらしと生涯学習」と題した

講演が行われました。

このなかで、「学習は挑戦だと考えている。だからこそできたときの喜びは大きい」とし、「生活の向上、職業能力のアップ、自身を高めるための学習をし、充実した人生をおくりましょう」との示唆がありました。



名演奏に場内から大きな拍手が

白倉が国際的なファイルドに

八月十九日から九月六日までの二十日間、旧白倉小学校を中心にロンドンA.Aスクール「川西町ランドスケープワークショップ」が開かれ、イギリスからの学生や日本国内の学生など約三十人が参加。自炊しながら、身近にある材料を使って「読むための椅子」を制作したり、地図を作ったり、意見交換や発表会などを通じて、地元白倉地域や町内外からの聴衆と交流したほか、九月一日には小白倉のまつりにも参加しました。



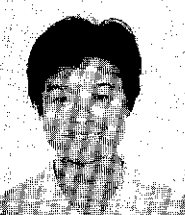
貴重な体験。小白倉のもみじ引き

こんにちは

ALTの鈴木です

二代目ALT（語学指導助手の意）の鈴木千恵子さんです。出身はカナダのノースヨーク州オンタリオ市、トロント大学（歴史・地理を専攻）で学びました。ご両親とも日本人で、カナダに移り住んでからの一九七〇年のお生まれです。フジテックで秘書として勤めていた経験もあり、会話は日本語でOK。

すでに川西中学校の教壇に立つてもらっています。住ま



いは山野田教員住宅です。ご近所の皆さんよろしくお願ひします。

大健闘ノジュニア選手

八月二十五日に行われた第十六回新潟県スポーツ少年団総合体育大会。柔道と卓球の部で優勝の栄冠に輝きました。優勝・準優勝のメンバーを紹介します。(敬称略)

◆柔道大会(会場：燕市市民体育館)五・六年生男子団体 優勝



茂野知幸(千小六)
高橋保弘(千小五)
五十川潤(千小六)
南雲悠延(千小六)
高橋直隆(千小六)
小林一将(千小六)
高橋美希(千小六)



◆卓球大会(会場：サン・ビレッジ弥彦)中学生男子団体 優勝

池竹 祐子(三年)、大浦 正美(三年)、水品 早絵(三年)、瀬賀真奈美(三年)、須藤 明美(二年)、五十嵐園恵(二年)

木村 友士(三年)
高橋 拓也(二年)
大久保守秀(二年)
和久井公太(二年)
根津 英和(二年)
清水 拓(二年)
岩坂 英二(二年)



9/1 ナカゴファミリーゴルフ場オープン。“ナイスショット” 大村麻理プロ

はつきすんびょう
葉月寸描



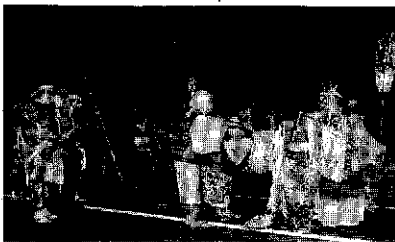
「まちづくり自由大学」開講中、次回は9/24 ご参加を



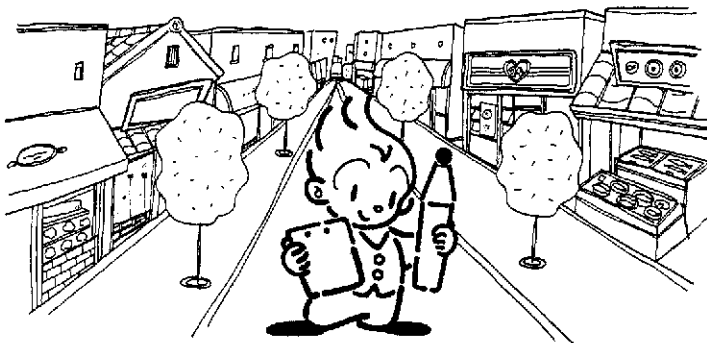
8/6 交通安全祈願祭(坪山にて)



▲(8/25木落にて)各地のまつり
▼(8/26上野にて)



21世紀を考える土台にします。 10月1日事業所・企業統計調査。



調査の対象は約700万事業所。

今の日本を知り、未来を考えるための事業所・企業統計調査が、来る10月1日、全国一斉に行われます。事業所・企業統計調査は、店舗や工場、会社をはじめとして、学校、駅、病院、神社などあらゆる種類の事業所や企業が対象となる大規模な統計調査です。

調査の結果は、地域開発計画、都市計画など生活に密着した問題について、国や都道府県、市区町村などが、これからの行政を考える基礎資料として活用されます。

9月下旬から、各事業所に調査員がお伺いし、調査票へのご記入をお願いします。時間はあまりおかけしませんので、どうぞご協力をお願いいたします。

ご協力いただく調査員の皆さん(敬称略)

地区	氏名	担当町内	地区	氏名	担当町内
千手	市川チエ	中島町・山野田・発電所通西・発電所通東・鉄道アパート・栄町・山野田住宅・県営住宅・朝日町・四郎兼	橋	滋野定良	木落・寺ヶ崎・塩辛・仁田・野口・四十歩・原田・根深・下原
	大井佐市	東善寺・上町・中央町・田中町・中屋敷・寺尾	仙田	登坂正道	中仙田・室島・小脇・高倉・田戸・赤谷・岩瀬・大倉・大白倉・小白倉
	高橋力夫	神社町・学校町・木島・沖立・伊友・高原田・坪山・霜条・鶴吉			
上野	南雲隆三	上野・元町・新町新田・下平新田・三領・小根岸			

会社も、お店も、学校も、病院も
**事業所・企業
統計調査**

平成8年10月1日
9月下旬から調査員がお伺いします。
総務庁統計局 新潟県



川西町への歩み⑦

岩瀬 金子 幸 作

川西町誕生の秘話 ③

語る人

和久井精一 M四三生 八六歳

上村 展栄 T 六生 七九歳

金山 良晃 (平成八年八月二十
七日遷化永眠(八
六歳) ごめい福を
お祈りいたします)

(敬称略)

押木仙田村長の夢

金子 押木仲治仙田村長が、

「県の勧告案にしたがつて一村をつらぬく決意でいたところ、村民の意向が合併に傾いていくので自分も決断せざるを得なかった」と述懐されたことがありました。

上村 仙田村の押木村長には確かにそういうフシがあった。ここ一番という大事な会議になると増田哲男助役の代席することがしばしばで、ご意向が拝察できた。

和久井 あの方は自分なりに、仙田村を独自に発展させていくだけの自信と夢を持っておられたのではなかったろうか。

難航した合併の話がようやくくまとまり、湯沢温泉のイナモト旅館で手打式が行われる日、千手町と



左から、金山(故人)、和久井、上村、金子の各氏

上野村と橋村の関係者は定刻前に集まったが、どうしたことが、仙田村のご一行は約束の時間を大幅に遅れて参着した。

金山 めでたく手打式という段になって、四方町村の三役と議長が大広間のステージを背に絢爛と並び、これに議員衆と関係職員が相対してシャン、シャン、シャンと手を打った。ところが、仙田村の押木村長は一人だけ起立せず、座ったままで無念そうに一点を凝視しておられた。

上村 増田哲男助役はじめ、起立した仙田村の人たちは、肝心の

村長様が座ったままなのでどうしたものかとシンドロモドロだった。合併の話はまとまっても、個人としては不本意な手を打ちたくなかったのかもしれない。

千手は町でござんす

金子 合併の資料に目をとめますと、とくに千手町が①新町名を「千手町」とする、②新庁舎は千手町役場に置く、の二点を強く主張しています。このため話がもつれて合併が長引きましたが、千手町のみなさんがあままでこだわった意図は余辺にありましたか。

金山 なにごとによらず、中村壮吉町長の口癖は「千手は町でござんす」だった。皇太子殿下のご生誕を記念し、発電所景気に勢いを得て中魚沼郡で二番目にできた由緒ある千手町だ、その千手の名が合併によって消滅するなど許せないという感情が強かった。町民にも、また、千手町の最後を見届けた丸山恒正町長にもこのムードが伝わっていたことは否めない。

和久井 国鉄固定資産税が千手町の財政をうるおす絶頂期であったから、合併して上野、橋、仙田村にも分けあたえてやる、くらいの強い気構えをもっていた。

上村 中村町長は將軍様みたいな髭を生やし、義理人情に厚い俠客肌の人で「川西の虎」ともいわれた。川西郷はおろか、郡市一帯

を睥睨して君臨した町長だった。

新町名と庁舎位置

上村 上野村と橋村は「新町名とし、庁舎は千手町と上野村の中間に」と主張した。仙田村は「町名は川西町とし、庁舎の位置は上野村と橋村に同じ」と主張したが、千手町が譲らなくて歩み寄れなかった。そこで、小日向地方事務所長が「新町名は川西町とし、役場の位置は向山ため池(現在の総合体育館)付近に置いたらどうか」と調定案を出した。

金山 千手町はこの調定案に「向山では遠すぎる。佐渡屋商店の後方に置くならまあいいだろう」といったことがある。このとき、三カ村側が折れて話をうまくまとめていたら、川西町役場はいま高原田の団地あたりに建っていた。

和久井 話はこじれたが、千手町はどっちかという庁舎の位置を重視し、最終的には新しい町の名を譲ったことになる。

夢もふくらむ川西町

金子 千手町があれば強く主張した新町名を、いともあっさり「川西町」に同意したような気がしますが…。

和久井 上野村と橋村と仙田村が一致して「川西町」を主張している、このうえオラが「千手町」にこだわっていると孤立し、合併

もご破算になるという結果を恐れたのではなかったか。

金山 母なる信濃川の西に、無限に発展の可能性をもつ新しい町が誕生する意義を尊重したといえる。また、主張が激しく対立して決裂もやむを得ないと覚悟していたのに、「千手町に一任する」と下駄を預けられて意気に感じた面もあったように思われる。

まぼろしの瑞穂町

金子 新しい町名について、川西町のほかにもいくつかの名があげられたと聞いています。

上村 上野村の内山恵雄助役が「米どころにふさわしく瑞穂町にしたい」と提案し、賛同者もあつたが、他県にも同名の町があり、また、むずかしい漢字の名は将来のためによろしくない、というおおかたの意見が大勢を占めた。

金山 新しい町名は募集したわけではなく、仙田村から提案されていた経緯もあって、だれいうとなく「川西町」がいちばんふさわしかろうという結論になった。

和久井 平凡でも足りないという議員もいたが、簡単明瞭で、古くから使われてきた川西の名がもつとも適切であろう、のちの世まで長く継承され、みんなに愛称されて発展する町になるだろうというところで「川西町」が正式の町名に採用された。(以下次号)

お知らせコーナー

忘れず受けよう

運転免許所有者講習会

町交通安全協会では、次の日程で講習会を行います。都合のつく会場におでかけください。

地区	月 日	会 場
千手	9月19日(木)	千手小学校体育館
上野	20日(金)	新潟川西農協本所
橋	24日(火)	橋小学校体育館
白倉	25日(水)	旧白倉小学校体育館
仙田	30日(月)	仙田小学校体育館

時間はいずれも午後6時30分からです

ほくほく線百景フォトコンテスト作品募集

◆テーマ ほくほく線のある景観(未発表の作品)

◆応募規格 カラープリント四ツ切り(ワイド四ツ切りも可)、応募点数制限なし

◆応募方法 写真の裏側に次の事項を明記した紙を貼り付ける。題名、撮影場所、住所、氏名、年齢、職業(または学年)、電話番号

◆締め切り 十一月末日(当日消印有効)

◆発表 平成九年一月中旬。入賞者に直接通知

◆賞 最優秀賞(二点) 十万円、優秀賞(四点) 五万円、入選(二十点) 一万円

◆応募窓口

郵送の場合…北越急行(株)ほくほく線百景フォトコンテスト係

(六日町大字六日町一三七—二) JA六日町支所三階 ☎〇二五七—七〇—二八二〇

持参の場合…ほくほく線百景フォトコンテストのポスターのある新潟フジカラー取扱い専門店

新大医学部附属病院

からお知らせ

診療科別の診療内容・日時・来院時の注意事項をはじめ、特定機能病院であっても紹介状なしで受診できることなどの情報を提供するテレホンサービスとファックスサービスを始めました。ご利用ください。

☎〇二五—二三—三八〇〇
FAX 一六—一—二八七—〇二
五—二三—一六三七四—〇一#

自賠責 なければ 乗れない 走れない

自動車及びバイクには、自賠責保険(共済)への加入が法律で義務づけられています。無保険(無共済)で走ると、六カ月以下の懲役、または五万円以下の罰金、さらに違反点数六点となり、免許停止処分の対象となります。

あなたの車やバイクの保険(共済)は大丈夫ですか。もし契約切れになったら、最寄りの損害保険会社、代理店(バイク・自転車店等)、農協にご相談ください。



6/19 川西高校でのミニバイク乗車指導

町立保育園の代替職員

登録者募集

町では、職員に替わって臨時的に保育業務を手伝っていただける方を募集しています。登録希望の方はご応募ください。

◆登録期間 平成八年十月一日から平成九年三月三十日

◆職種 保育及び調理員

◆賃金(保育は日賃、調理員は時給です) 保育(有資格者) 六、六〇〇円 保育(無資格者) 五、八〇〇円 調理員 七〇〇円

◆登録資格 通勤可能な人

◆申込期限 九月二十七日

◆申込先 役場住民課社会福祉係(六八—一三—一 内線二〇四) 有線二—三—二、または最寄りの町立保育園まで

善 意

(敬称略)

広報発行に

高橋恒治(志木市) 1万円
高橋丑松(寝屋川市) 5千円
版 画
田口良平(木落) 1点

暮らしのカレンダー

9 月	
10	住民検診事後指導会(田戸公民館) ママさん教室(保健センター)
11	住民検診事後指導会(小島集落センター・高倉集落センター)
12	住民検診事後指導会(保健センター)
13	リハビリ教室(保健センター)
14	
15	敬老の日・家庭の日 心配ごと相談(克雪センター)
16	ナカゴスブラッシュ'96 (ナカゴグリーンパーク)
17	三混・二混予防接種②(克雪センター)
18	すくすく教室(総合センター)
19	三混・二混予防接種②(総合センター)
20	健康相談日(保健センター) 三混・二混予防接種②(高齢者コミセン)
21	
22	心配ごと相談日(総合センター)
23	秋分の日
24	三混・二混予防接種②(上野コミセン)
25	成分献血(要予約・保健センター)
26	三混・二混予防接種②(総合センター)
27	リハビリ教室(保健センター)
28	
29	心配ごと相談日・行政相談日(総合センター)
30	納税等振替日
10 月	
1	ポリオ生ワク(克雪センター)
2	
3	ポリオ生ワク(上野コミセン)
4	ポリオ生ワク(高齢者コミセン)
5	
6	心配ごと相談(上野コミセン) 新潟県バダニゴルフチャンピオン大会(ナカゴ)
7	ポリオ生ワク(総合センター)
8	
9	
10	体育の日 第9回町民体育祭(川西中学校)

◎ は日曜日

◎ 時間など詳しくは、広報お知らせ版をご覧ください。

計画外流通米の 検査手続きと届出

昨年十一月に施行された新食糧法等により、生産者は計画出荷米（自主流通米と政府米）以外の米（計画外流通米）については、希望に応じて検査を受けられることになりました。検査等についての問い合わせは、新潟食糧事務所十日町支所（☎五七―六五二）までどうぞ。

暴力団を排除し 住みよい妻有郷を

十日町警察署では、平成八年九月三十日を八、九、三、〇の日とし、暴力団の排除を強化する日と定めました。

暴力団なんてドラマの世界なんて楽観視はできません。妻有郷でも暴力団による被害が発生しています。困っていることがあったら何でもご相談ください。（☎五二―〇一一〇）

おでかけください 消防ひろば

◆日時 九月二十二日（日）午前
十時～午後三時（雨天時は九月二十九日。時間同じ）

◆場所 十日町市役所裏職員駐車場

◆内容 ミニ消防車運転、はしご車試乗、消防士体験コーナー他
楽しい催し物盛りだくさん。

電話帳回収します

N T Tでは、本年十月発行の「中越タウンページ」配布の際、古くなった電話帳を回収することになりました。これは、紙資源として再利用するためのもので、九月十三日～九月三十日の間に行います。この期間中不在等により回収できなかった分については、ご連絡（十月十一日まで、N T T電話帳お届けセンター☎〇二〇―三三四―八二）いただければ回収にうかがいます。

かわい 俳壇 高崎正風選

ダム涸れて大夕焼も底となる
高原田 引間 子平
孫来るとブルに朝の水満たす
伊勢原市 金子 桂吉
粧ひのショートカットに盆来る
寺尾 白井すみい
デパートに新米川西コシヒカリ
野口 五十嵐トラ
夕月の稲穂に光り分ちけり
仁田 戸田 貞
秋七草句碑公園を散策す
霜条 大海 白涛
穂ススキに時の流れる早さかな
野口 野沢 静江
散水車埃上げつ、撒き行けり
霜条 星名 星光
台風的事なき窓を開け放つ
新町新田 若山 向山
手も足もやたらと長し帰省の子
上町 高橋 願似
一湿り欲しと大根時く日待つ
大倉 中条 石平
遠くより祭りばやしの威勢よく



木落にお住まいの田口良平さん（六十九歳）からご寄贈いただいた版画「雪にくれる」は、五九豪雪を描いたもの。町総合センターに展示しますのでご覧ください。

糖尿病を予防しよう (5)

ヘルスアップ教室糖尿病コース

糖尿病予防シリーズも五回目とくいかないことも、仲間と共に学びました。これまで、糖尿病と習すると、はげまされながら身にはどんな病気か、どんなことに注意つくといひます。ぜひ、教室をの意が必要かなどをお知らせしてきざいてみませんか。

本年度の日程については、後日病の予防には「食生活」と「運動習慣」が大切です。その大切さはわかっていても、つい自己流になっ

てしまったり、長続きしなかったりとなかなか大変なのが現実です。員に血糖検査を実施したところ、

そこで町では、糖尿病の方を対象に「ヘルスアップ教室（糖尿病コース）」を開催しています。一

人ひとりの指示カロリーを基に、何をどのくらい食べれば良いのかを、試食をまじえながら、毎日使

っているごはん茶わんによって具体的に学習していきます。

今年も十一月から三月までの五カ月間、開催を予定しています。

十一月に三日間基本を学習し、年末年始の生活の乱れがちな時期を

過ごしていただき、三月にコントロール状況を確認するための検査

を行うという、計五日間のコースとなっております。教室を終了され

た方の中には、糖尿病型から正常型に改善された方や、体重が八キ

ログラムも減った方など成果を上げられ、今なおその健康状態を維持

なさっています。一人ではうま



糖尿病教室のもよう。皆さんしんけん

冬の間でも自宅でもできる運動をお教えします

戸籍の窓から

うぶ声—おすこやかに

井川 萌波 貴光 新町新田
 滋野 莉穂 徹 廣美 野口
 中島 凌 直光 新町新田
 丸山 航平 義幸 根 深
 佐藤 杏海 美和 伊 友
 丸山 諒 光司 高原 田
 柄沢 真郷 雅信 沖 立
 藤田 健也 喜紀 根 深

たかさご—ご円満に
 (樋口 博之 下平新田
 中村 友貴 愛知県 から
 丸山 康彦 原田
 (武田 千香子 岩手県 から
 昇天—ごめい福を祈る

須藤 林次 67 (林次) 下 原
 酒井 トミ 72 (三治) 田中 町
 川崎 繁子 73 (正) 寺 尾
 千葉 安男 74 (安男) 中島 町
 村越 良 78 (吉一) 野 口
 中嶋 増三 79 (勲) 上 野
 春日 徳松 80 (勇) 通所 野
 上村 忠雄 80 (英雄) 上 野
 金山 良晃 86 (良晃) 霜 条
 高橋 ヨシヲ 87 (直司) 野 口
 須藤 キク 88 (千鶴子) 仁 田

表紙の写真

八月二十六日の夕方、上野諏訪まつりの名物行事として、地元はもとより妻有郷にも聞えた仮装大会。第三十二回を数えた今回は、子供の部に二団体、大人の部には個人八人と八団体が参加し、思い思いに趣向を凝らした扮装で、詰め掛けた大勢の観衆の笑い拍手

を誘いました。

大人の部団体の第一位は、地元上野第二の上村庄さんを代表とする総勢二十五名による「かぐや姫」。きらびやかな衣装で竹取物語を再現してくれました。写真は、十日町市から参加のおどり愛好会による「白きつねの嫁入り」三三九度の場面です。

休日救急医

9月15日 大島医院 (川原町)
 ☎ 52-2957
 16日 上村病院 (中里村)
 ☎ 63-2111
 22日 大坪医院 (四日町)
 ☎ 57-6100
 23日 田中外科医院 (田中町)
 ☎ 52-2403
 29日 山口医院 (下条)
 ☎ 55-2003
 10月6日 上村病院 (中里村)
 ☎ 63-2111
 10日 池田医院 (本町西)
 ☎ 52-2581
 13日 田中外科医院 (田中町)
 ☎ 52-2403

ちいさな展覧会

98

川西中学校



「HIKARI」
 3年生 水品早絵 さん



▲「青い空」
 1年生 金子めぐみ さん



▶「夏男」
 3年生 高橋俊博 さん

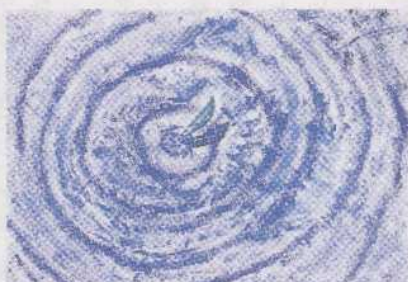
「チューリップ」
 ▼ 2年生 木村祐子 さん



▲「柔らかな山岳風景」
 1年生 星名宏孝 さん



▲「空から見た町」
 2年生 金井和也 さん



▲「波」
 2年生 渡貫正嗣 さん



▲「君の瞳を求めて」
 2年生 若山博彰 さん

(10月号は千手小学校です)